

ワイヤレスオーディオアダプタ  
CPI-WX001 ユーザーズマニュアル



株式会社 シーピーアイテクノロジーズ

# 目次

ご注意	I
保証規定	III
製品について	IV
安全上のご注意	VI
<b>1. 概要</b>	<b>1</b>
1-1. はじめに	1
1-2. 特長と機能	2
<b>2. 詳細</b>	<b>3</b>
2-1. 親機	3
2-2. 子機	4
2-3. 各部の説明	5
<b>3. 使用方法</b>	<b>11</b>
3-1. デバイスドライバのインストール (タイプMU)	11
3-2. 既定のデバイスにする場合 (タイプMU)	12
3-3. アプリケーションでの例 (タイプMU)	14
3-4. 電源との接続	16
3-5. 外部機器との接続 (タイプMA)	17
3-6. 外部機器、ヘッドフォンとの接続 (タイプS)	18
3-7. ペアリング	19
<b>4. 製品仕様</b>	<b>20</b>
製品のお問い合わせについて	21

## ご注意

1. 本製品の外観や仕様及び取扱説明書に記載されている事項は、将来予告なしに変更することがあります。
2. 取扱説明書に記載のすべての事項について、株式会社シーピーアイテクノロジーズから文書による許諾を得ずに行う、あらゆる複製も転載も禁じます。
3. この取扱説明書に記載されている会社名及び製品名は、各社の商標又は登録商標です。
4. 取扱説明書の内容を十分に理解しないまま本製品を扱うことは、おやめください。本製品の取扱いについては安全上細心の注意が必要です。取扱い説明を十分に理解してから本製品をご使用ください。
5. 本製品をお使いいただくには、コンピュータや Windows についての一般的な知識が必要です。この取扱説明書は、お読みになるお客様がコンピュータや Windows の使い方については既知であることを前提に、製品の使いかたを説明しています。もし、コンピュータや Windows についてご不明な点がありましたら、それらの説明書や関係書籍等を参照してください。
6. 本製品は、日本国内においてのみ、無許可で使用が可能です。国外では、そのまま使用することはできません。
7. 本製品は 2.4GHz 帯の無線を使用しています。同じ周波数帯を使用する無線 LAN アクセスポイントや無線 LAN、Bluetooth 搭載機器（パーソナルコンピュータ、ゲーム機、スマートフォンなど）やアマチュア無線、デジタルコードレス電話、電子レンジ等と電波の干渉が発生するため、これらの機器に妨害を与えたり、またこれらの機器から妨害を受けて、音声途切れたり、リンクが切断する可能性もあります。特に昨今ではこの周波数帯の利用機器が著しく増加したため、その可能性はさらに高くなっている状況にあるものと思われます。また、上記のような環境下でない場合においても、無線の性質上、音声途切れる可能性も考えられます。したがって、運用の際は、実際に設置する場所での通信品質の妥当性の検証を十分に行ってください。しかし、いずれの場合においても、音声途切れがないことは保証できかねますので、それが必要となるアプリケーションには、ご使用にならないでください。

8. 本製品に内蔵の無線モジュールのハードウェア、ソフトウェアに変更を加えて、弊社出荷時と異なる状態にして動作させることは、法律違反となります。また、弊社指定品以外のアンテナやケーブル等を接続して動作させることも、法律違反となります。絶対におやめください。
9. 親機での音源の種別や使用する入力端子の違いにかかわらず、子機側のデジタル出力の接続先機器でのデジタル録音はできなくなります。
10. 本製品の運用や、それに関する情報は、明示、暗示にかかわらず、それにより起因する結果のすべてについて、弊社はその責任を負いかねます。

# 保証規定

## 1. 保証の範囲

- 1.1 この保証規定は、弊社—株式会社シーピーアイテクノロジーズが製造・出荷し、お客様にご購入いただいたハードウェア製品に適用されます。
- 1.2 弊社によって出荷されたソフトウェア製品については、弊社所定のソフトウェア使用許諾契約書の規定が適用されます。
- 1.3 弊社以外で製造されたハードウェア又はソフトウェア製品については、製造元／供給元が出荷した製品そのままを提供いたしますが、かかる製品には、その製造元／供給元が独自の保証を規定することがあります。

## 2. 保証条件

弊社は、以下の条項に基づき製品を保証いたします。不慮の製品トラブルを未然に防ぐためにも、あらかじめ各条項をご理解のうえ製品をご使用ください。

- 2.1 この保証規定は弊社の製品保証の根幹をなすものであり、製品によっては、その取扱説明書や保証書などで更に内容が細分化され個別に規定されることがあります。したがって、ここに規定する各条項の拡大解釈による取扱いや特定目的への使用に際しては十分にご注意ください。
- 2.2 製品の保証期間は、製品に添付される「保証書」に記載された期間となり、弊社は、保証期間中に発見された製品の不具合について保証の責任をもちます。
- 2.3 保証期間中の製品の不具合について、弊社は不具合部品を無償で修理又は交換します。ただし、次の場合は保証の適用外となります。
  1. 保証書の提示がない場合、または、保証書にご購入年月日、お客様名、販売店名の記入がない場合、もしくは字句が書き替えられた場合。
  2. 取扱上の不注意や誤用による故障や損傷。
  3. 接続している他の機器または指定以外の部品使用に起因して故障が生じた場合。
  4. 弊社指定以外で調整や保守、修理などを行った場合、及び改造した場合。
  5. 火災、地震、風水害、落電、その他の災害や公害、異常電圧などによる故障や損傷。
- 2.4 消耗部材を取り替える場合は保証の対象とはなりません。
- 2.5 原子力関連、医療関連、鉄道等運輸関連、ビル管理、その他の人命に関わるあらゆる事物の施設・設備・器機など全般にわたり、製品を部品や機材として使用することはできません。もし、これらへ使用した場合は保証の適用外となり、いかなる不具合及び損害や損失についても弊社は責任を負いません。また、本製品を用いて製造された二次生成物がこれらに使用された場合も同様とします。
- 2.6 弊社は本製品の運用を理由とするいかなる損害、損失等の請求につきましては、これに応じかねますので、あらかじめご了承ください。
- 2.7 本製品は日本国内向け仕様であり、海外の諸規格には準拠しておりません。また、海外で使用した場合は保証の適用外となります。

# 製品について

## ◆ 製品リスト

機能を実現するためには、タイプ MU または MA が 1 台と、タイプ S が 1~4 台必要となります。

型番	種別	付属品	概要
CPI-WX001/MU	親機 タイプ MU	スリーブアンテナ USB ケーブル	USB 入力の親機です。タイプ S と組み合わせて、PC 上の音源を USB 経由で送信します。
CPI-WX001/MA	親機 タイプ MA	スリーブアンテナ AC アダプタ USB ケーブル(電源用)	アナログ/デジタル入力の親機です。タイプ S と組み合わせて、ライン出力や光オーディオデジタル出力からの音声を送信します。
CPI-WX001/S	子機 タイプ S	スリーブアンテナ AC アダプタ USB ケーブル(電源用)	アナログ/デジタル/ヘッドフォン出力が可能な子機です。タイプ MU またはタイプ MA と組み合わせ、それらからの音声データを受信して、ライン出力や光オーディオデジタル出力ができます。ヘッドフォンを接続することも可能です。

※アナログ入力/出力と外部機器とを接続する RCA ステレオケーブル等は付属しません。

※デジタル入力/出力と外部機器とを接続する光デジタルオーディオケーブル等は付属しません。

## ◆ オプション

型番	内容
CPI-WAM903	パッチアンテナ(指定品) 付属のスリーブアンテナの代わりに接続可能です。水平方向に指向性があるため、一般的にスリーブアンテナよりも高性能です。屋内専用です。
CPI-WAM904	八木アンテナ用同軸ケーブル 5m(指定品) 下記八木アンテナを使用する際に必要です。
CPI-WAM905	八木アンテナ(指定品:ナテック社 YA2415A) 付属のスリーブアンテナの代わりに接続可能です。水平方向に鋭い指向性があるため、100m 以上離れた 1 対 1 の固定局間の通信に向いています。

### 注 意

弊社指定のオプション以外のアンテナやケーブルなどを本装置に接続して動作させることは、法律違反となります。絶対におやめください。

この機器の使用周波数帯では、電子レンジ等の産業・科学・医療用機器のほか工場の製造ライン等で使用されている移動体識別用の構内無線局（免許を要する無線局）及び特定小電力無線局（免許を要しない無線局）並びにアマチュア無線局（免許を要する無線局）が運用されています。

1. この機器を使用する前に、近くで移動体識別用の構内無線局及び特定小電力無線局並びにアマチュア無線局が運用されていないことを確認して下さい。
2. 万一、この機器から移動体識別用の構内無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合には、速やかに使用周波数を変更するか又は電波の発射を停止して下さい。
3. その他、この機器から移動体識別用の特定小電力無線局あるいはアマチュア無線局に対して有害な電波干渉の事例が発生した場合など何かお困りのことが起きたときは、弊社までお問い合わせ下さい。

# 安全上のご注意

ここに示す注意事項は、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防ぐためのものです。

注意事項は、誤った取扱いで生じる危害や損害の大きさ、又は切迫の程度によって内容を「警告」と「注意」の2つに分けています。「警告」や「注意」はそれぞれ次のことを知らせていますので、その内容をよくご理解なさってから本文をお読みください。

**警告：** この指示を無視して誤った取扱いをすると、人が死亡したり重傷を負ったりすることがあります。

**注意：** この指示を無視して誤った取扱いをすると、人が傷害を負ったり、物に損害を受けたりすることがあります。



## —— 感電や火災の危険があります ——

- 付属品以外のACアダプタを本製品にお使いにならないでください。火災や感電の原因となることがあります。万一、発熱、煙が出ている、異臭がするなどの異常に気が付いた場合はすぐに電源の供給を止めてください。異常状態のまま使用すると、火災や感電のおそれがあります。
- 電池は正しい極性でお使いください。誤った極性のままお使いになると、火災や破裂のおそれがあります。また、異なる種類の電池や、新旧の電池を混ぜてお使いにならないでください。火災や破裂のおそれがあります。
- 万一、水などの液体が本製品のユニット内部に侵入した場合は、すぐにACアダプタ、USBケーブル、電池を本体から抜いてください。そのまま使用すると、火災や感電のおそれがあります。



## 注意

取り扱いかたによっては  
—— けがをしたり機器を損傷することがあります ——

- 直射日光のあたる場所、極端に高温・低温になる場所、湿度の高い場所、ほこりの多い場所、静電気の多い場所では使用しないでください。
- 急激な温度差を与えると結露が発生する可能性があります。発生した場合は必ず時間をおき、結露が無くなってから使用してください。
- 衝撃に弱い部品を使用していますので、持ち運びは慎重に行ってください。落下など強い衝撃を与えますと故障の原因となります。
- 充電機をご使用の際に、本製品の低電圧警告が出た場合は、なるべく早めに電源を切断してください。そのまま使用を継続すると、充電機の電圧が下がり過ぎ（過放電）、以降の使用可能回数が少なくなるなどの劣化が発生する場合があります。
- 本製品を長期間使わない場合は、電池を取り出しておいてください。液漏れにより、本製品が損傷する可能性があります。
- ヘッドフォンなどを耳に装着したままプラグを抜き差ししたり、本製品の電源スイッチをオン/オフしたりしないでください。大きな音やノイズなどにより、耳に損傷を与える可能性があります。

# 1. 概要

## 1-1. はじめに

ワイヤレスオーディオアダプタ GPI-WX001 は、無線により音声を離れたところに伝送できる装置です。親機は USB またはライン／光デジタルからの音声データを無線で送信し、子機はその信号を受信して、ライン／光デジタルとして出力します。USB や光デジタルの場合は、音源データの改変なく、離れた場所へ伝送できるため、高音質な再生が可能です。また、1 台の親機から最大 4 台までの子機へ同時配信が可能です。

## 1-2. 特長と機能

### 特長

- 音声をデジタル化して伝送するため、高品質な再生が可能です。
- USB や光デジタルのときは、音源からのデータ改変がない、ビットパーフェクトな伝送が可能です
- 音声データは圧縮せずに伝送するため、遅延の少ない再生ができます
- 1 台の親機から、最大 4 台の子機への配信が可能です
- 標準搭載のスリープアンテナ同士で、見通し 100m 以上の伝送が可能です
- 日本国内では無許可で使用できます(工事設計認証取得済み無線モジュール使用)

### 機能

- PC 上の音声データなどを、無線で飛ばすことができます。ユニットは、Windows7 の場合、USB オーディオデバイスのスピーカーに見えます。PC と USB ケーブル 1 本のみ接続なので、お手軽です。(MU:親機 USB タイプの場合)
- AV機器で一般的な出力である光デジタルやラインの音声を、無線で飛ばすことができます。電源は、付属の AC アダプタ、USB、電池の 3 系統に対応しています。(MI:親機アナログ/デジタル入力タイプの場合)
- 親機からの音声データを受信し、AV 機器などへ光デジタル/ライン出力できます。また、音量調整付きのヘッドフォン出力も標準搭載しています。これらのすべての出力は同時使用が可能です。電源は、付属の AC アダプタ、USB、電池の 3 系統に対応しています。(S:子機の場合)
- 親子間の無線リンクは、親機が電波的に見える状態において、子機のペアリングスイッチを押すことで可能です。また、一度でもリンクが正常に成立すると、親機にその情報が保持され、以降の電源投入ごとに、相手が見える状態にあれば、自動的にリンクが成立します。
- 電源や無線リンクの状態を示す LED 表示があります。

## 2. 詳細

### 2-1. 親機

親機は、その音声入力の違いによって、2種類あります。

MU は USB 入力タイプです。音源が PC 上にある場合に適しています。USB からの電源のみで動作可能なので、配線は PC と接続する USB ケーブル 1 本だけで済みます。また、ある条件下においては、音源データと全く同一のデータの子機側へ伝送すること（ビットパーフェクト）も可能なため、より高音質な再生が可能です。

MA はアナログ／デジタル入力タイプです。音源が一般のオーディオ／ビジュアル(AV) 機器の場合に適しています。アナログ入力には、AV 機器で一般的なライン出力を接続できます。製品内部で、アナログ／デジタル変換を行っています。デジタル入力には、AV 機器の光デジタルオーディオ出力を接続できます。この場合、ある条件下においては、音源データと全く同一のデータの子機側へ伝送すること（ビットパーフェクト）も可能なため、より高音質な再生が可能です。なお、アナログ入力とデジタル入力に、有効な信号を同時に接続した場合、デジタル入力側が自動的に選択されます。

音源機器	機器の要件		相対音質	対応する親機
PC	USB	Windows Vista 以降 かつ WASAPI 対応オーディオプレイヤー かつ 音量は最高値(減衰量 0dB) かつ イコライザなど音を変化させる機能は無効	優	MU
		上記以外	良	
AV 機器 など	光出力(SPDIF 出力)などのデジタル出力		優	MA/デジタル入力
	ライン出力などのアナログ出力		可	MA/アナログ入力

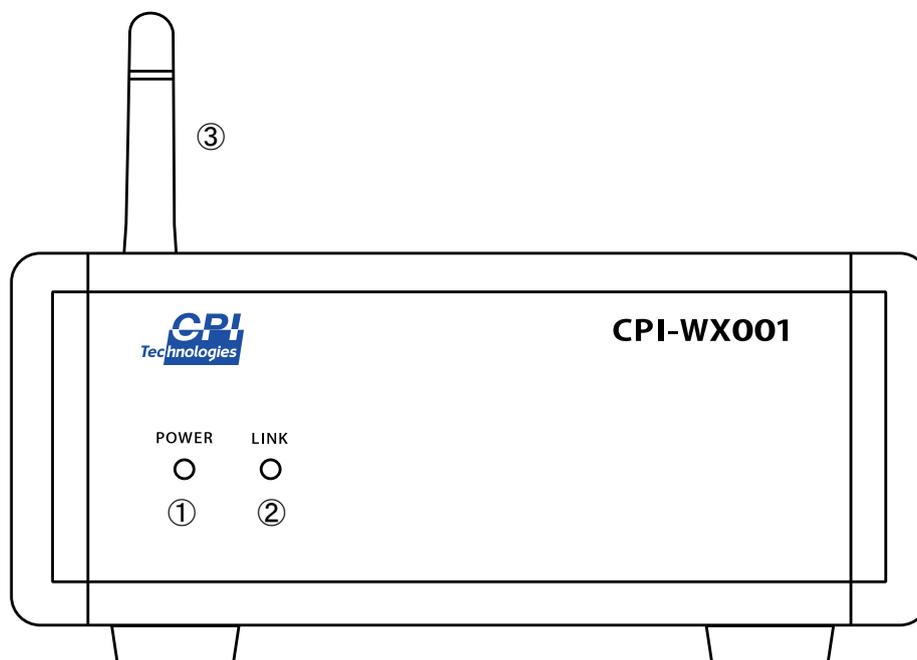
- 「優」は、ビットパーフェクトが可能です。
- 「良」は、リサンプリングやデジタル演算が発生するため、元データが変質しますが、デジタルデータのまま、子モジュールへ伝えられます。
- 「可」は、アナログ信号のときにノイズが混入しやすく、またアナログ信号をデジタルデータに変換する処理も必要になるため、「優」「良」と比較すると音質が低下する傾向にあります。
- なお、上記は音源が PCM の場合です。MP3 などの圧縮音源の場合、エンコード時に元の音源の情報が一部失われるため、そもそもが変質していると言えます。
- ただし、上記は一般論であり、実際に音を聴く方がそのことを感知できるかは別の話です。特に「優」と「良」とは、その差異が相対的に少ないものと思われます。

## 2-2. 子機

子機は、親機からの電波を受信して、音声データを取り出し、出力します。親子間の通信にエラーが発生した場合、子機側は無音データを送出します。よって、再生される音声には、基本的に耳障りなノイズは発生しません。アナログ出力は、AV 機器で一般的なライン入力に接続できます。デジタル出力は、AV 機器の光デジタルオーディオ入力に接続できます（接続先の機器でデジタル録音はできません）。ヘッドフォン出力は、音量調整ボリュームがあり、ヘッドフォンやイヤフォンを接続できます。なお、これら3つの出力は、同時使用が可能です。

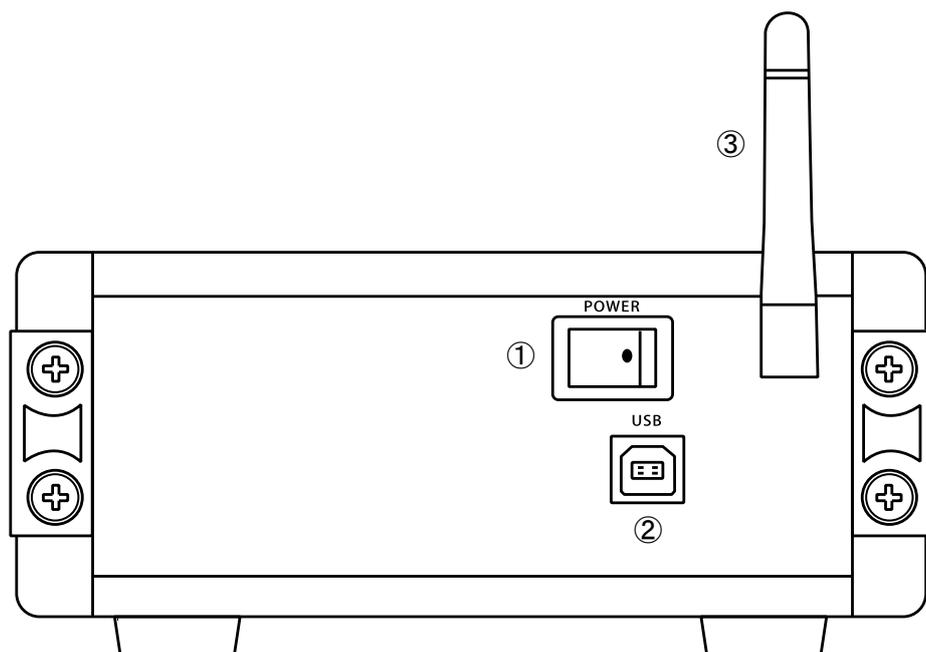
## 2-3. 各部の説明

### ◆ タイプ MU / 前面



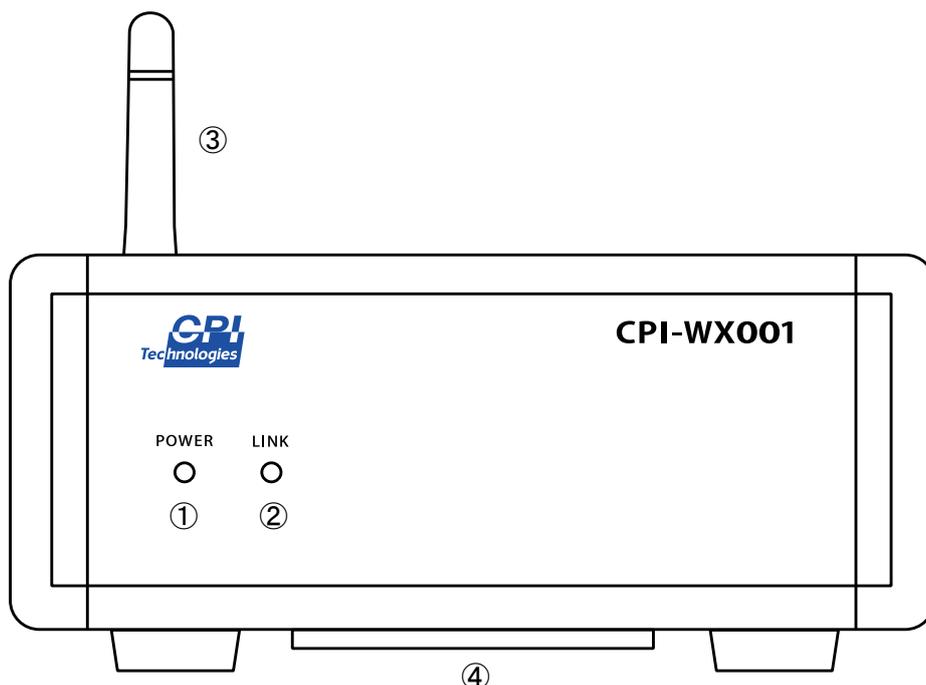
番号	名称	説明
①	パワーLED	電源(USB)の状態を表す LED ランプです。 緑点灯: 電源オン 消灯: 電源オフ
②	リンク LED	電源オンのときに、無線リンクの状態を表す LED ランプです。また USB の状態も示します。 緑点灯: 無線リンク確立 緑点滅(0.02 秒点灯/0.98 秒消灯): 無線リンク未確立 消灯: ホスト PC がスリープ状態など
③	スリーブアンテナ	付属のアンテナです。ご使用の際は、アンテナコネクタへ取り付け、垂直に立ててください。

◆ タイプ MU / 後面



番号	名称	説明
①	電源スイッチ	電源スイッチです。ご使用の際、オンにしてください。PC の電源と連動させる場合は、常時オンのままでもかまいません。
②	USB コネクタ	付属の USB ケーブルを接続するコネクタです。ケーブルのもう一方はホスト PC の USB ポートへ接続します。デジタル音声データと電源は、USB ケーブルを経由して本装置に入ります。
③	スリーブアンテナ	付属のアンテナです。ご使用の際は、アンテナコネクタへ取り付けて、垂直に立ててください。

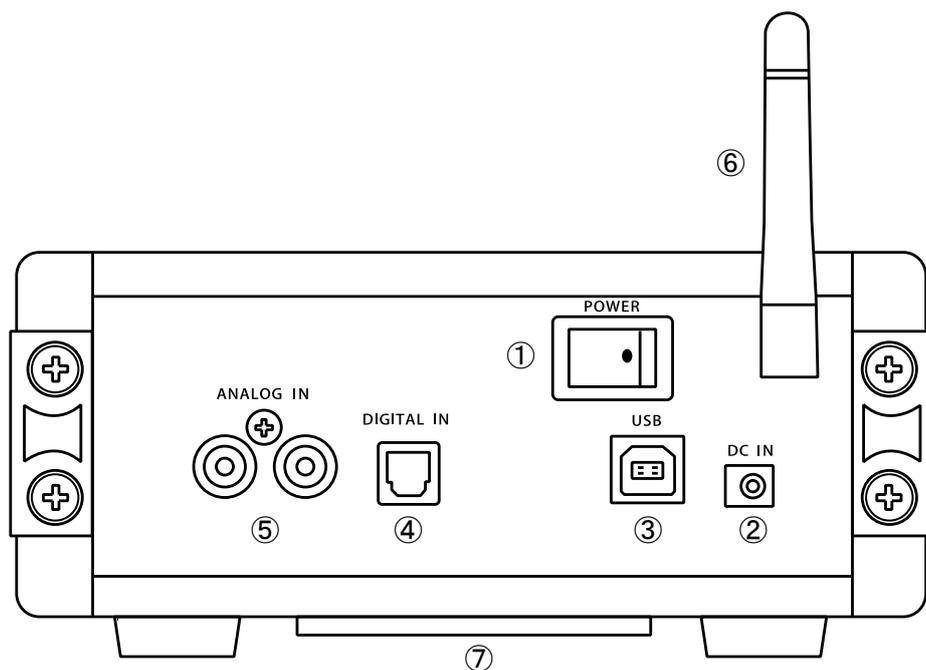
◆ タイプMA / 前面



番号	名称	説明
①	パワーLED	電源の状態を表す LED ランプです。 緑点灯: 電源オン(AC アダプタまたは USB 電源で動作) 橙点灯: 電源オン(電池で動作) 赤点灯: 電池動作のとき、低電圧警告 * 1 消灯: 電源オフ
②	リンク LED	電源オンのときに、無線リンクの状態を表す LED ランプです。またデジタル入力の状態も示します。 緑点灯: 無線リンク確立 緑点滅(0.02 秒点灯/0.98 秒消灯): 無線リンク未確立 緑点滅(0.5 秒点灯/0.5 秒消灯): 対応できないデジタル入力のデータ
③	スリーブアンテナ	付属のアンテナです。ご使用の際は、アンテナコネクタへ取り付け、垂直に立ててください。
④	電池ボックス	電池で動作させる場合に、ここに電池を入れます。単 3 タイプの電池が 3 本必要です。乾電池とニッケル水素充電機に対応しています。

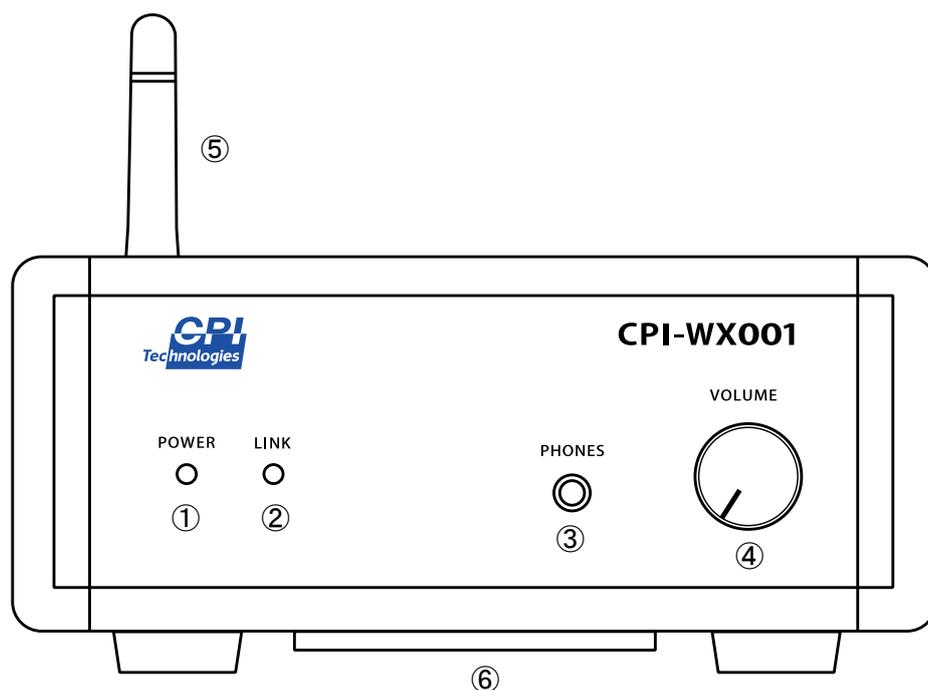
\*1 低電圧警告が発生した場合は、短時間のうち、音の異常などが発生します。

◆ タイプMA / 後面



番号	名称	説明
①	電源スイッチ	電源スイッチです。ご使用の際、オンにしてください。
②	DC ジャック	付属の AC アダプタを接続します。
③	USB コネクタ	USB や USB 電源アダプタなどでお使いになる場合、付属の USB ケーブルを接続するコネクタです。
④	デジタル入力コネクタ	外部機器の光デジタルオーディオ出力などと接続するコネクタです。
⑤	アナログ入力コネクタ	外部機器のライン出力などと接続するコネクタです。
⑥	スリーブアンテナ	付属のアンテナです。ご使用の際は、アンテナコネクタへ取り付けて、垂直に立ててください。
⑦	電池ボックス	電池で動作させる場合に、ここに電池を入れます。単 3 タイプの電池が 3 本必要です。乾電池とニッケル水素充電機に対応しています。

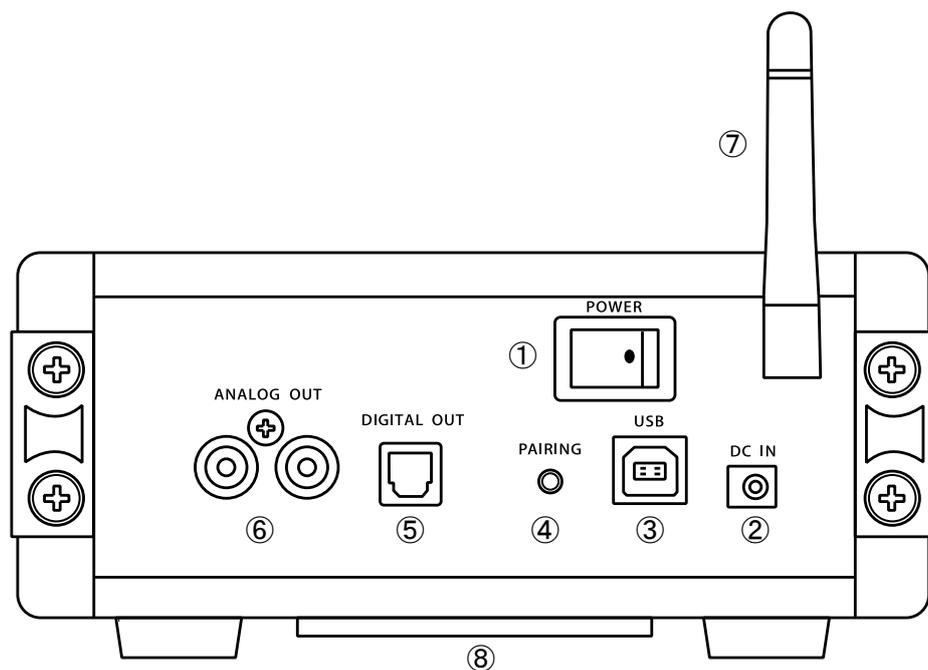
◆ タイプS / 前面



番号	名称	説明
①	パワーLED	電源の状態を表す LED ランプです。 緑点灯: 電源オン(AC アダプタまたは USB 電源で動作) 橙点灯: 電源オン(電池で動作) 赤点灯: 電池動作のとき、低電圧警告 *1 消灯: 電源オフ
②	リンク LED	電源オンのときに、無線リンクの状態を表す LED ランプです。 緑点灯: 無線リンク確立 緑点滅(0.02 秒点灯/0.98 秒消灯): 無線リンク未確立
③	ヘッドフォン出力コネクタ	ヘッドフォンやイヤフォンを接続するコネクタです。
④	音量ボリューム	ヘッドフォンやイヤフォンの音量を調整するボリュームです。
⑤	スリーブアンテナ	付属のアンテナです。ご使用の際は、アンテナコネクタへ取り付け、垂直に立ててください。
⑥	電池ボックス	電池で動作させる場合に、ここに電池を入れます。単 3 タイプの電池が 3 本必要です。乾電池とニッケル水素充電電池に対応しています。

\*1 低電圧警告が発生した場合は、短時間のうち、音の異常などが発生します。

◆ タイプS / 後面



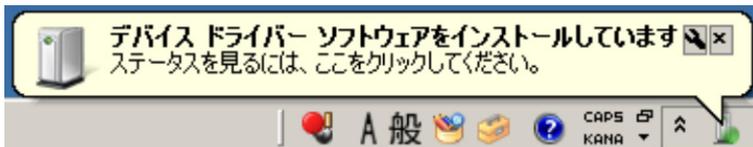
番号	名称	説明
①	電源スイッチ	電源スイッチです。ご使用の際、オンにしてください。
②	DC ジャック	付属の AC アダプタを接続します。
③	USB コネクタ	USB や USB 電源アダプタなどでお使いになる場合、付属の USB ケーブルを接続するコネクタです。
④	ペアリングスイッチ	無線ネットワークのペアリングを行うスイッチです。
⑤	デジタル出力コネクタ	外部機器の光デジタルオーディオ入力などと接続するコネクタです。
⑥	アナログ出力コネクタ	外部機器のライン入力などと接続するコネクタです。
⑦	スリーブアンテナ	付属のアンテナです。ご使用の際は、アンテナコネクタへ取り付けて、垂直に立ててください。
⑧	電池ボックス	電池で動作させる場合に、ここに電池を入れます。単3タイプの電池が3本必要です。乾電池とニッケル水素充電機に対応しています。

## 3. 使用方法

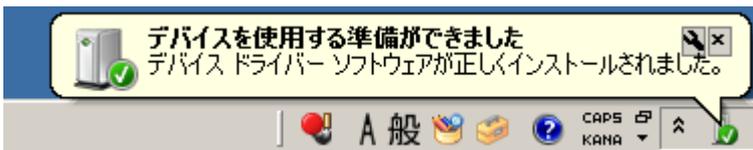
### 3-1. デバイスドライバのインストール (タイプMU)

タイプMUは、ホストPCとUSBで接続して使用します。ホストPCへの最初の接続のとき、USBのデバイスとして登録されます。以下はWindows7の例です。他のOSの場合も、こちらを参考としてください。

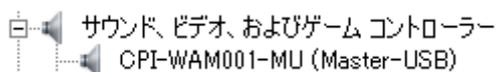
1. ホストPCと付属品のUSBケーブルで接続して、背面の電源スイッチをオンにします。
2. PCの通知領域に以下のような表示が現れ、自動的にデバイスドライバがインストールされます。



3. しばらくして、インストールが終了すると、以下のような表示に変わり、PCがタイプMUを使う準備ができたことを示します。



4. 以降、デバイスドライバが正常に登録されているかを確認する場合は、1の状態にて、デバイスマネージャー ([スタート]-[コントロールパネル]-[システムとセキュリティ]と開き、[システム]の下にある[デバイスマネージャー]をクリック) の"サウンド、ビデオ、およびゲームコントローラー"をダブルクリックすると、以下のように"CPI-WAM001-MU (Master-USB)"が表示されます。



5. これでタイプMUのデバイスドライバがPCに登録されました。本システムをPCのスピーカーの代わりにお使いになる場合は、次の3-2.を、オーディオプレイヤーなどの特定のアプリケーションでお使いになる場合は3-3.を、参照してください。

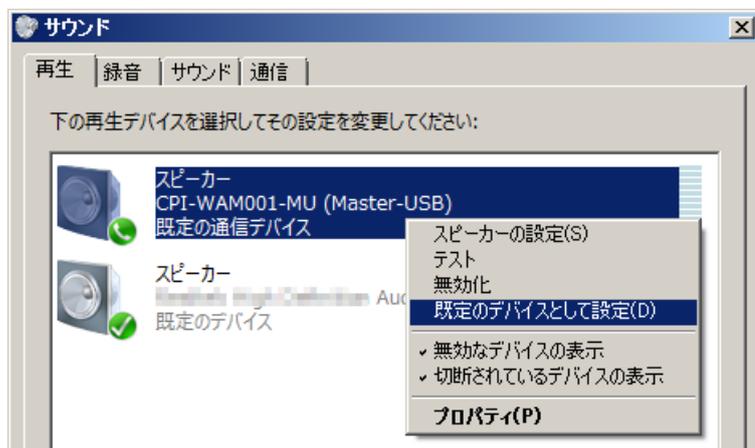
## 3-2. 既定のデバイスにする場合（タイプMU）

PC のスピーカーのように、基本的にホスト PC 上で発生するすべての音を本製品へ出力する場合は、以下のように設定します。オーディオプレイヤーなどを使用して音源を再生する場合は、この設定は不要です。

1. サウンド（[スタート]-[コントロールパネル]-[ハードウェアとサウンド]と開き、[サウンド]の下にある[オーディオ デバイスの管理]をクリック）を開いて、再生タブにある「スピーカー CPI-WAM001-MU (Master-USB)」の項目が「既定のデバイス」であれば、すでに設定されています。「既定のデバイス」以外のときは、次の2へ進みます。



2. 「スピーカー CPI-WAM001-MU (Master-USB)」の項目を右クリックすると、以下のような画面になるので、「既定のデバイスとして設定(D)」を選んでクリックします。



3. 「スピーカー CPI-WAM001-MU (Master-USB)」の項目が、「既定のデバイス」になっていることを確認します。「OK」をクリックして、この画面を閉じます。

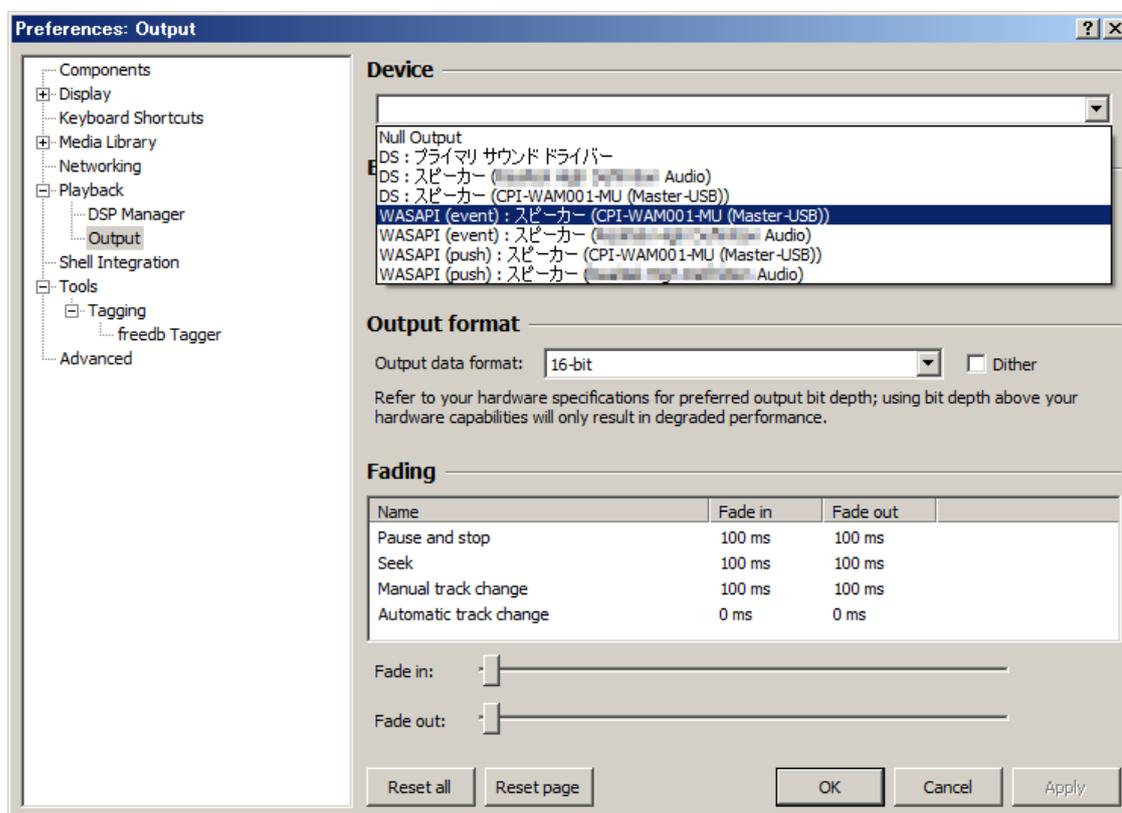


4. 以降、PC上で発生する音は、基本的に本製品のタイプSから出力されます。

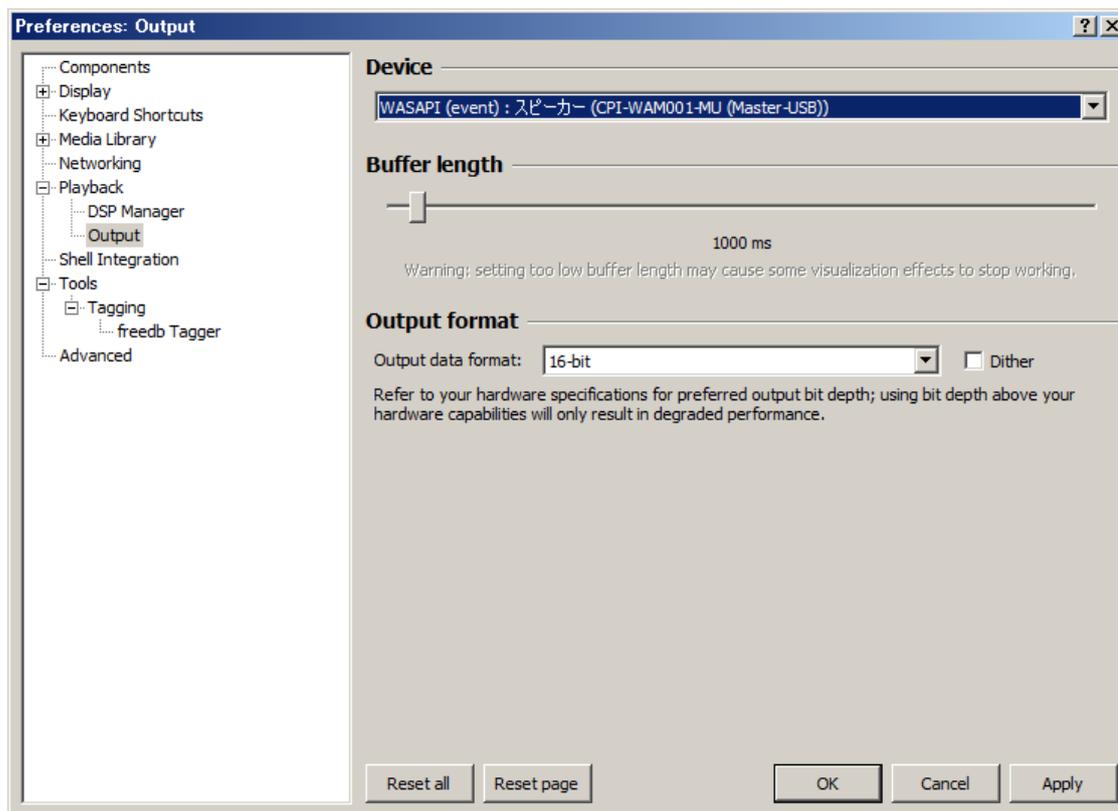
### 3-3. アプリケーションでの例 (タイプMU)

音声プレーヤーで音源を再生する場合は、出力デバイスとして本製品を選択します。以下は foobar2000 (Copyright 2001-2014, Peter Pawlowski) の WASAPI 対応済みでの例です。WASAPI 対応コンポーネントは foobar2000 とは別にインストールが必要です。詳細は foobar2000 のホームページをご参照ください。

1. foobar2000 を起動し、[file]-[preferences] で [Playback] の中の [Output] を選択し、[Device] 欄の▼ を左クリックすると、以下のような画面になります。リストの中から「WASAPI (event) : スピーカー (CPI-WAM001-MU (Master-USB))」または「WASAPI (push) : スピーカー (CPI-WAM001-MU (Master-USB))」もしくは「DS: スピーカー (CPI-WAM001-MU (Master-USB))」を選択します。また [Output format] は「16-bit」を選択します。



2. [Device]の欄に1で選択したものが表示されます。OK をクリックして、この画面を閉じます。



3. 以降、このプレーヤーの再生音は、本製品のタイプSから出力されます。

## 3-4. 電源との接続

タイプ MU は、USB からの電源のみで動作します。ホスト PC と付属品の USB ケーブルで接続してください。ご使用の際は、背面の電源スイッチをオンにします。ご使用後は、音声プレーヤーなどのタイプ MU を使用しているアプリケーションを終了させてから、スイッチをオフにしてください。ホスト PC の電源と連動させる場合は、電源スイッチは常にオンのままでも問題ありません。

タイプ MA と S は、標準的には付属品の AC アダプタで動作させますが、他には USB や電池での動作も可能です。USB の場合は、付属品の USB ケーブルを用いて、PC 等の USB ポートや USB 電源アダプタに接続してください。電池の場合は、単 3 乾電池（アルカリ電池を推奨）や単 3 ニッケル水素充電電池（エネルーブなど）3 本を、底面の電池ボックスに入れてください。電池でご使用の際に、前面パネルのパワーLED が赤色に点灯した場合は、電池の電圧が低下していることを表し、短時間のうちに音の異常などが発生しますので、速やかに新しい電池に交換してください。これらの電源は、同時に使用することも可能ですが、電池よりも AC アダプタまたは USB 電源が優先されます。環境に応じて、お好みの電源にてご使用ください。ご使用の際は、背面の電源スイッチをオンにします。ご使用後は、スイッチをオフにしてください。

なお、電源スイッチがオフでも、内部回路が一部動作しているため、微少ながら電流を消費しています。また AC アダプタは、その性質上、製品の電源スイッチをオフにしても、若干の電気を消費し続けます。長期間ご使用にならない場合は、AC アダプタや USB 電源アダプタの場合はコンセントからアダプタを、USB の場合は USB ケーブルを、電池の場合は電池ボックスから電池を、外してください。

## 3-5. 外部機器との接続 (タイプMA)

タイプMAは、外部のAV機器などからの音声信号を入力することができます。

ライン出力などのアナログ信号の場合、タイプMAの背面にあるアナログ入力“ANALOG IN”に、市販のRCAステレオケーブルなどで接続します。白色のコネクタが左(L)チャンネル、赤色のコネクタが右(R)チャンネルです。

光デジタルオーディオ出力などのデジタル信号の場合、タイプMAの背面にあるデジタル入力“DIGITAL IN”に、市販の光デジタルオーディオケーブルで接続します。

アナログ入力、デジタル入力ともに接続されている場合、デジタル側が自動的に選択されます。アナログ側を確実に選択するためには、デジタル側に接続している音源機器の電源をオフにするか、光ケーブル自体を外す必要があります。

## 3-6. 外部機器、ヘッドフォンとの接続（タイプS）

タイプSは、外部のAV機器などへ音声信号を出力することができます。

アナログ信号の場合、タイプSの背面にあるアナログ出力“ANALOG OUT”からライン入力などへ、市販のRCAステレオケーブルなどで接続します。白色のコネクタが左(L)チャンネル、赤色のコネクタが右(R)チャンネルです。

デジタル信号の場合、タイプSの背面にあるデジタル出力“DIGITAL OUT”から光デジタルオーディオ入力などへ、市販の光デジタルオーディオケーブルで接続します。なお、接続先のAV機器では、親機の入力種別に関わらず、デジタル録音はできません。

また、前面のヘッドフォン出力に、ヘッドフォンやイヤフォンを接続すれば、音声を聴くこともできます。音量調整ボリュームをまわして、適当なレベルに設定してください。

なお、上記の3種類の出力は、同時に使用することができます。

## 3-7. ペアリング

ペアリングとは、親機と子機を組み合わせ、無線ネットワークのグループを構築することを言います。最初のご使用の際にペアリングを実行して、親機に子機の情報に登録します。以降は、その情報を使って自動的に無線接続（リンク）が確立します。

1. 親機（タイプ MU または MA）の電源スイッチをオンにします。前面のリンク LED は緑色の点滅（チカッ、チカッ、・・・）となります。
2. 親機からの電波が十分に届く範囲に子機（タイプ S）を置いて、電源スイッチをオンにします。前面のリンク LED は緑色の点滅（チカッ、チカッ、・・・）となります。
3. 子機の後面にあるペアリングスイッチ“PAIRING”を押して離します。
4. ペアリングに成功すると、子機のリンク LED が緑色の点滅から点灯に変化します。成功しない場合は、親機にできるだけ近づけて、3 項へ戻って繰り返します。
5. ペアリングに成功したら、子機の電源スイッチを一度オフにしてオンにしてみます。リンク LED がすぐに緑色に点灯すれば、親機に子機の情報に正常に登録されています。子機の台数分、2 項へ戻って作業を繰り返します。
6. 親機、子機の実際の設置場所でリンクが成立することを確認してください。

## 4. 製品仕様

名称	ワイヤレスオーディオアダプタ		
型番	CPI-WX001		
	/MU	親機: USB 入力タイプ	
	/MA	親機: アナログ/デジタル入力タイプ	
	/S	子機: アナログ/デジタル出力	
インターフェイス	USB (/MU)	シリーズ B コネクタ レセプタクル USB2.0 Full Speed オーディオデバイスクラス	
	アナログ入力 (/MA)	RCA ステレオジャック (デジタル入力が未接続のとき使用可能) ラインレベル	
	デジタル入力 (/MA)	TOSLINK 角型コネクタ (アナログ入力よりも優先選択) SPDIF (光)	
	アナログ出力 (/S)	RCA ステレオジャック (デジタル出力と同時に使用可能) ラインレベル	
	デジタル出力 (/S)	TOSLINK 角型コネクタ (アナログ出力と同時に使用可能) SPDIF (光)	
	ヘッドフォン出力 (/S)	φ3.5mm ステレオミニジャック 適合負荷インピーダンス 16~32Ω	
無線	周波数	2.4GHz 帯	
	アンテナ	スリープアンテナ標準装備, オプションで弊社指定のパッチ/八木アンテナ	
	音声データ圧縮	なし	
	リンク数	親機 1 台につき最大 4 台までの子機に音声配信可能	
	リンク方法	子機のペアリングスイッチの押下	
	到達距離	見通しで 100m 以上 (実測値) 見通しで 1km 以上 (実測値 親機、子機ともにオプションの八木アンテナのとき)	
音声	デジタル入出力 フォーマット	/MU	USB: PCM ステレオ 16bit 32/44.1/48kHz *1
		/MA	光デジタル入力: PCM ステレオ 16bit 32/44.1/48kHz ライン入力: PCM ステレオ 16bit 48kHz 化
		/S	光デジタル出力: 現在の親機のフォーマットと同じ
	データ遅延	1024 サンプル (23.22ms @ 44.1kHz)	
本体	電源	/MU	USB より供給 バスパワーハブ対応 4.4~5.25V
		/MA	付属 AC アダプタ または USB 電源 または 単 3 電池 3 本 (1.5V アルカリ乾電池 または 1.2V ニッケル水素充電電池) 3~5.25V
		/S	付属 AC アダプタ または USB 電源 または 単 3 電池 3 本 (1.5V アルカリ乾電池 または 1.2V ニッケル水素充電電池) 3~5.25V
	消費電流	/MU	75mA @ 5V (USB)
		/MA	170mA @ 5V (AC アダプタ/USB) 30VA 以下 @ AC100V (AC アダプタ)
		/S	250mA @ 5V (AC アダプタ/USB) 30VA 以下 @ AC100V (AC アダプタ)
	電池動作時間(参考)	/MA	アルカリ乾電池 10 時間 ニッケル水素充電電池(エネルーブ) 9 時間
		/S	アルカリ乾電池 8 時間 ニッケル水素充電電池(エネルーブ) 8 時間
	動作温度範囲	5~50°C	
	保存温度範囲	-5~70°C	
	寸法	幅 160mm × 奥行 160mm × 高さ 72.6mm (突起物を除く)	
認証	工事設計認証取得済みモジュール 弊社 CPI-WAM001 シリーズ搭載 日本国内において無許可で使用可能		
対応 OS (/MU)	Windows7, 8,10		

\*1 OS や音声再生ソフトは、デバイス側の能力値に合わせてデータを変換することができるため、これ以外のデータでも再生することは自体は可能です。

## 製品のお問い合わせについて

- ◆ お買い求めいただいた製品に対する次のようなお問い合わせは、お求めの販売店又は株式会社シーピーアイテクノロジーズへご連絡ください。
  - ・お求めの製品にご不審な点や万一欠品があったとき
  - ・製品の補充品や関連商品について
  - ・本製品を使用した特注製品についてのご相談
- ◆ 技術サポート —— 技術的な内容のお問い合わせは、「電子メール」「ファクス」「郵送」のいずれかにて、下記までお問い合わせください。また、お問い合わせの際は、内容をできるだけ詳しく具体的にお書きくださるようお願いいたします。

————— 技術的な内容のお問い合わせ先 —————

株式会社シーピーアイテクノロジーズ テクニカルサポート

〒240-0003 横浜市保土ケ谷区天王町 1-1-13 吉野ビル 3F

E-mail support@spi-tec.com

FAX 045-331-9203

ワイヤレスオーディオアダプタ  
CPI-WX001  
ユーザーズマニュアル

---

第2版第1刷発行 2021年4月8日  
発行所 株式会社シーピーアイテクノロジーズ  
〒240-0003 横浜市保土ヶ谷区天王町1-1-13 吉野ビル3F  
TEL 045-331-9201 FAX 045-331-9203

---

不許複製

T0026-UM1-210408  
© 2014-2021 株式会社シーピーアイテクノロジーズ